

2024年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

(2023年4月-2023年6月)

2023年8月7日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)

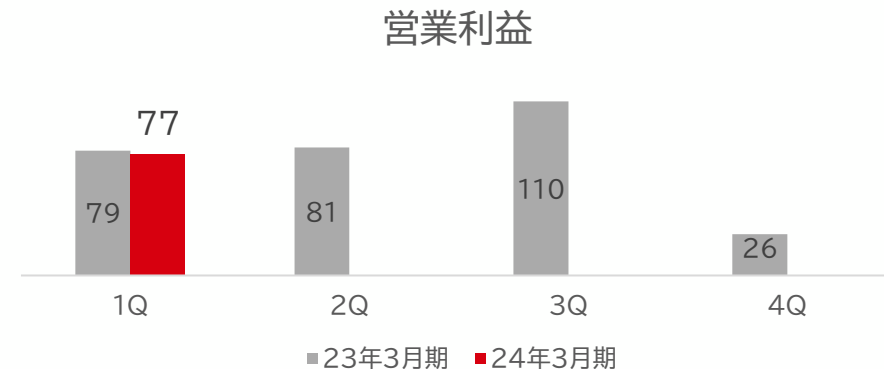
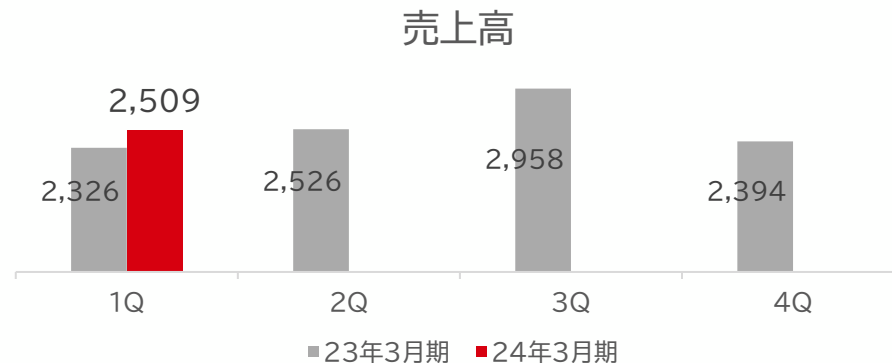


第1四半期決算ハイライト

売上高は、水産物相場の高値継続や、食品の値上げ浸透を受けて、前年対比+7.9%増収。
営業利益は、水産資源セグメントが苦戦し、前年対比△2.3%減益。

(単位:億円)

	23年6月期	22年6月期	前年対比		年間計画	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	2,509	2,326	183	+7.9%	9,800	25.6%
営業利益	77	79	△2	△2.3%	270	28.5%
経常利益	112	122	△10	△7.9%	270	41.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	77	△10	△13.3%	185	36.0%



第1四半期決算のポイント

水産資源セグメントは、前年対比で減益であるものの、漁業ユニット以外のユニットでは計画以上の進捗。

- 漁業ユニットにおける漁船の稼働低下による漁獲数量減少と燃料費の高騰により、減益。
(漁業ユニット営業利益 Δ 10億円、前年対比 Δ 5億円)
- 海外ユニットのスケソウダラ事業(北米)は、相場が軟調に推移したほか、販売遅れが発生。
ペットフード事業(タイ)は、北米における販売先の在庫調整を受けて販売数量が減少し、減益。
(海外ユニット営業利益 18億円、前年対比 Δ 10億円)

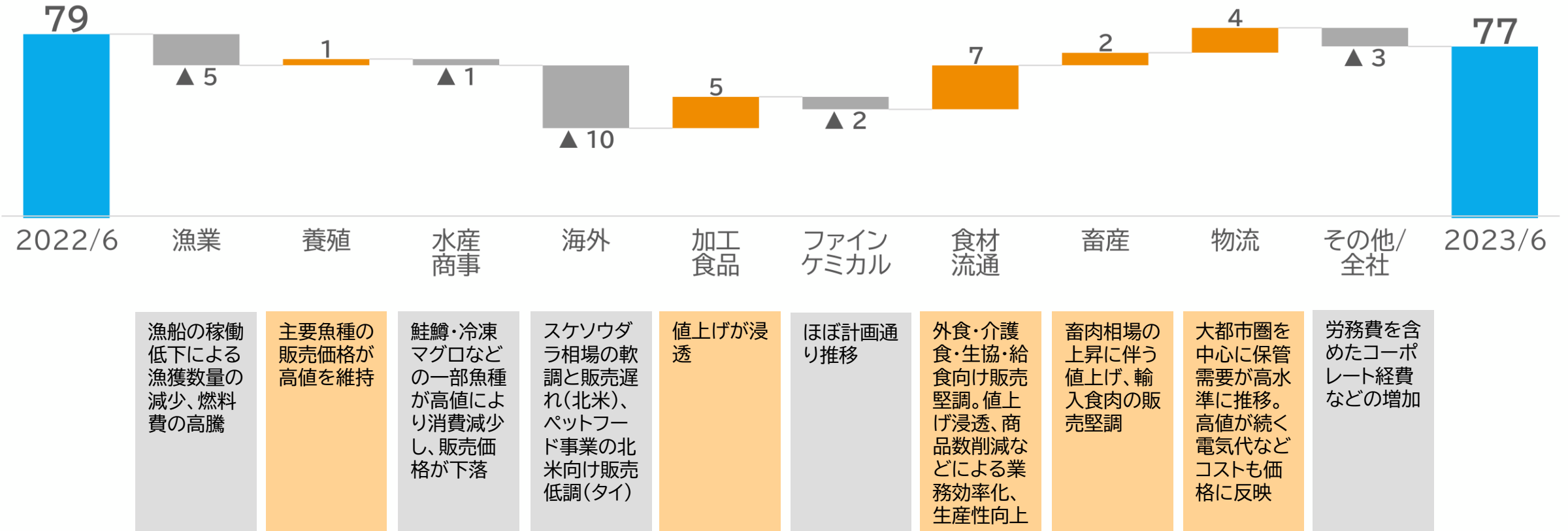
加工食品セグメント・食材流通セグメントは、前期から進めていた値上げが浸透し、営業利益が回復。

- 値上の浸透や、商品数の削減などによる業務効率化・生産性向上が奏功し、増益。
(2セグメント合計の営業利益 37億円、前年対比+12億円)

営業利益の増減要因

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計

(単位:億円)

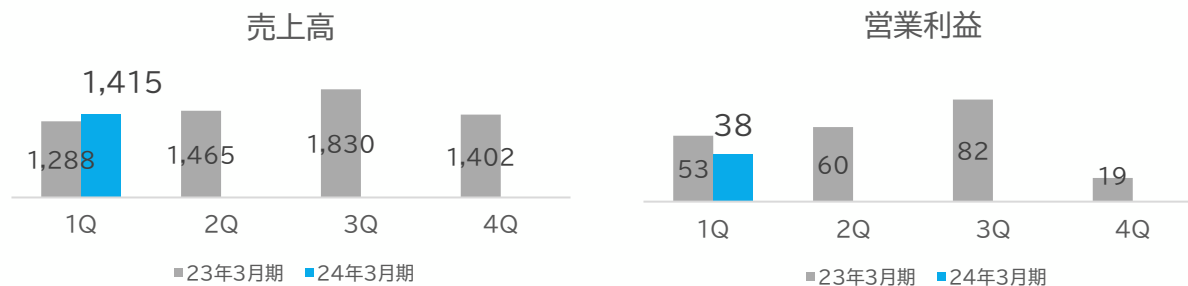


水産資源セグメント

漁業での漁獲数量減少と燃料費の高騰、ペットフード事業での販売先の在庫調整影響を受けて、29%減益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年6月期	22年6月期	前年対比		23年6月期	22年6月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
漁業	89	76	13	+17.0%	△10	△5	△5	—
養殖	41	41	0	+1.1%	8	7	1	+9.9%
水産商事	734	719	15	+2.1%	22	23	△1	△5.9%
海外	551	452	98	+21.8%	18	28	△10	△34.8%
セグメント計	1,415	1,288	127	+9.9%	38	53	△15	△28.8%



水産資源セグメント②

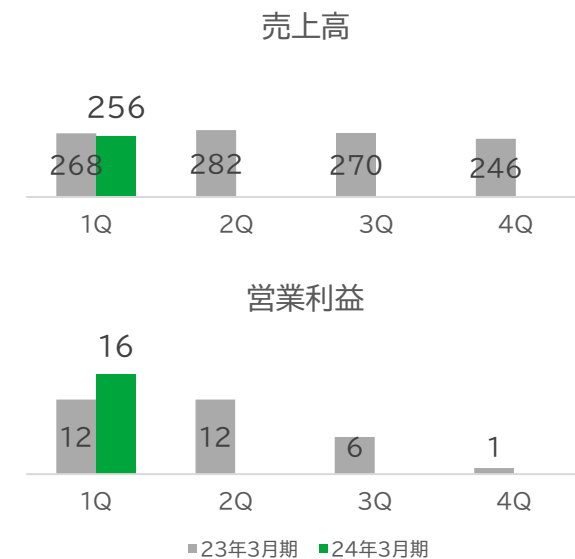
- **漁業** 【概況】メロを始め、主要魚種の販売好調により増収となった一方、漁船の稼働低下による漁獲数量の減少や燃料費の高騰により減益。
【通期・施策】燃料価格高騰に対するコスト抑制や操業体制の見直し、自社加工度を高めるなど販売ルートが多様化により、収益性を向上させる。
- **養殖** 【概況】主にブリ・カンパチの販売数量増加と、主要魚種の販売価格が引き続き高値を維持したことによって増収増益。
【通期・施策】燃料・飼料代の高騰による原価上昇を懸念⇒配合飼料の見直しを含むコスト最適化や飼育技術の向上、安定取引先との取組み強化により影響緩和に努める。マグロを含めた、グループ内連携による販売多様化も進める。
- **水産商事** 【概況】水産物全般の相場が高値継続し、増収となったものの、鮭鱒・冷凍マグロなど一部魚種が、高値による消費減少で販売価格が下落し、減益。
【通期・施策】商事⇄荷受間の連携強化による販売拡大と、在庫管理を徹底し、安定した利益を確保する。
- **海外<北米>** 【概況】スケソウダラ資源の増枠もあり供給は増えたものの、相場が軟調に推移したほか、販売遅れが発生し、増収減益。
【通期・施策】生産コストの高止まりに対し、工場要員の最適配置と生産効率向上によるコスト抑制を図る。相場が軟調になる中、生産品の早期販売をめざす。
<欧州> 【概況】前期に子会社化した企業が堅調に推移し、増収増益。
【通期・施策】子会社のガバナンスを強化し、グループシナジーを醸成する。
<アジア> 【概況】ペットフード事業が、主要販売先である北米での在庫調整を受け、販売が低調に推移し、減収減益。
【通期・施策】販売先での在庫調整は、下期での回復を見込む。商品開発による競争優位性を高めるほか、販路開拓で販売量維持に努める。

加工食品セグメント

加工食品ユニットでの値上げ浸透により、全体で27%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年6月期	22年6月期	前年対比		23年6月期	22年6月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
加工食品	240	248	△8	△3.4%	13	8	5	+64.2%
ファインケミカル	17	20	△3	△14.9%	3	4	△2	△40.6%
セグメント計	256	268	△11	△4.2%	16	12	3	+27.0%



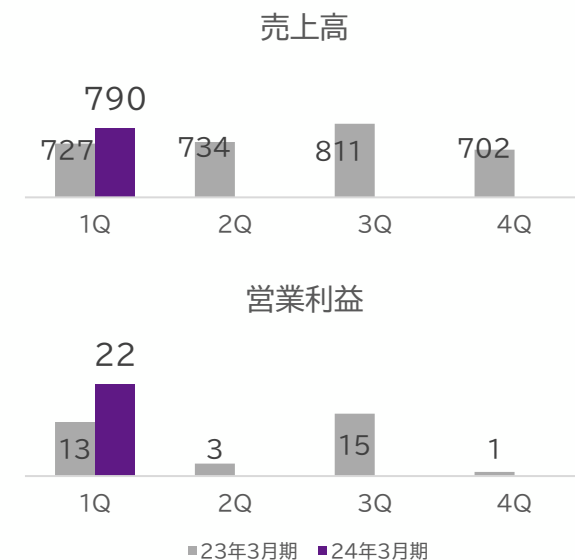
- **加工食品** 【概況】外食傾向が増えたことに加え、値上げによる消費者の節約志向が顕著となり、数量・売上で苦戦。広島工場火災での前年逸失分も加わり減収となったものの、値上げ浸透により増益。
【通期・施策】原材料・資材などのコストアップが発生する場合は、適宜商品の見直しや価格改定を検討。
冷凍食品では、前期に生産設備を強化した麺類による収益の確保。伸長する麺・惣菜カテゴリの事業拡大。
- **ファインケミカル** 【概況】健康食品向けの販売が底堅く、計画通りに推移。
【通期・施策】既存商品での機能性表示食品の表示適格取得・拡販。医薬原薬(EPA、ヘパリン)の取扱い拡大。「予防食・未病食」分野への取組み。

食材流通セグメント

値上の浸透に加え、業務効率化や生産性向上が奏功し、全体で68%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年6月期	22年6月期	前年対比		23年6月期	22年6月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
食材流通	528	521	7	+1.3%	15	8	7	+81.5%
畜産	262	205	57	+27.6%	6	4	2	+42.0%
セグメント計	790	727	64	+8.7%	22	13	9	+67.8%



- 食材流通** 【概況】外食・介護食・生協・給食向けなどへの販売が堅調に推移。また、値上げ効果や、商品数削減などによる業務効率化・生産性向上などに努めたことにより、増収増益。

【通期・施策】グループ内の連携を強化し、水産・畜産・農産の枠組みを超えた、顧客起点での販売力を強化。市場変化に合わせた業態ニーズの把握と、新規市場の開拓による販路拡大。生産性向上の継続。
- 畜産** 【概況】全般的な畜肉相場の上昇に伴った畜肉製品販売価格の値上げ実施、および輸入食肉の販売が堅調に推移し、増収増益。

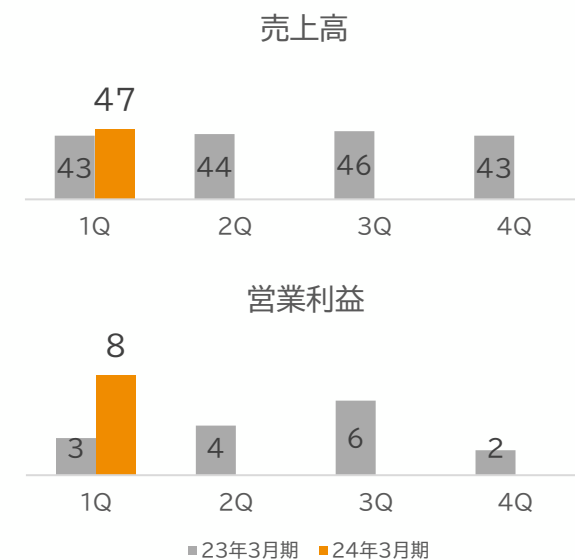
【通期・施策】国内外の多様な調達網を活用して市場ニーズに対応。グループ内連携を進めることで収益力の最大化を図る。

物流セグメント

保管需要を着実に取り込み、126%増益。

(単位: 億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年6月期	22年6月期	前年対比		23年6月期	22年6月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
物流	47	43	4	+9.1%	8	3	4	+126.1%



- **物流**

【概況】大都市圏を中心に在庫数量が高水準で推移したことに加え、前期同様に高負担が続く電気料金などのコストを価格に反映したことにより、増収増益。

【通期・施策】デジタル化や省人化技術の導入による効率化の推進。省エネ機器の導入などによるCO₂削減への取組み継続。

2024年問題に対応した、モーダルシフト推進や荷待ち時間の削減などにより、物流基盤を強化。

Appendix

2024年3月期 第1四半期 連結損益計算書

(単位:億円)

	23年6月期	22年6月期	増減	主な内容
売上高	2,509	2,326	183	
売上原価	2,169	1,987	181	
売上総利益	341	339	2	
販売費・一般管理費	264	260	3	
営業利益	77	79	△ 2	
営業外収益	44	48	△ 4	為替差益(16)
営業外費用	8	5	3	
経常利益	112	122	△ 10	
特別利益	1	4	△ 3	
特別損失	6	3	3	
税金等調整前四半期純利益	107	122	△ 15	
法人税等	35	33	2	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	13	△ 7	
親会社株主に帰属する四半期純利益	67	77	△ 10	

2024年3月期 第1四半期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	23年6月末	23年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,147	3,926	221	現預金(△49)、売上債権(+55)、棚卸資産(+193)
固定資産	2,457	2,446	12	
資産合計	6,605	6,372	232	
流動負債	2,714	2,654	59	仕入債務(+36)、短期借入金(△25)
固定負債	1,706	1,593	113	長期借入金(+119)
負債合計	4,419	4,247	172	
株主資本	1,670	1,636	34	
その他包括累計	169	147	23	
非支配株主持分	346	342	4	
純資産合計	2,185	2,125	60	
負債純資産合計	6,605	6,372	232	
有利子負債	3,105	3,011	93	(社債+50を含む)
自己資本比率	27.9%	28.0%	△ 0.1	

資産の増加+232億円

- ・水産物・畜産物の販売好調による売上債権の増加
- ・季節要因による棚卸資産の増加
※在外会社資産の為替換算レート差影響含む(+33億円)

負債の増加+172億円

- ・運転資本の増に伴う有利子負債の増加
- ・仕入債務や営業未払費用の増加

2024年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	23年6月期	22年6月期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 62	△ 207	145	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (+107) ・減価償却費(のれん含む) (+43) ・売上債権の増減額<増加:△> (△49) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△170) ・仕入債務の増減額<減少:△> (+21) ・その他流動負債の増減額<減少:△> (+54) ・法人税等の支払額 (△33)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 24	△ 144	120	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△29) ・無形固定資産の取得による支出 (△5) ・利息及び配当金の受取 (+8)
財務活動による キャッシュ・フロー	32	302	△ 271	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減<減少:△> (△88) ・長期借入金の増減<減少:△> (+173) ・配当金の支払額 (△33) ・非支配株主への配当金の支払額 (△12) ・利息の支払額 (△7)
現金・現金同等物の 期末残高	285	205	80	—

2024年3月期 第1四半期 セグメント・ユニット別 実績

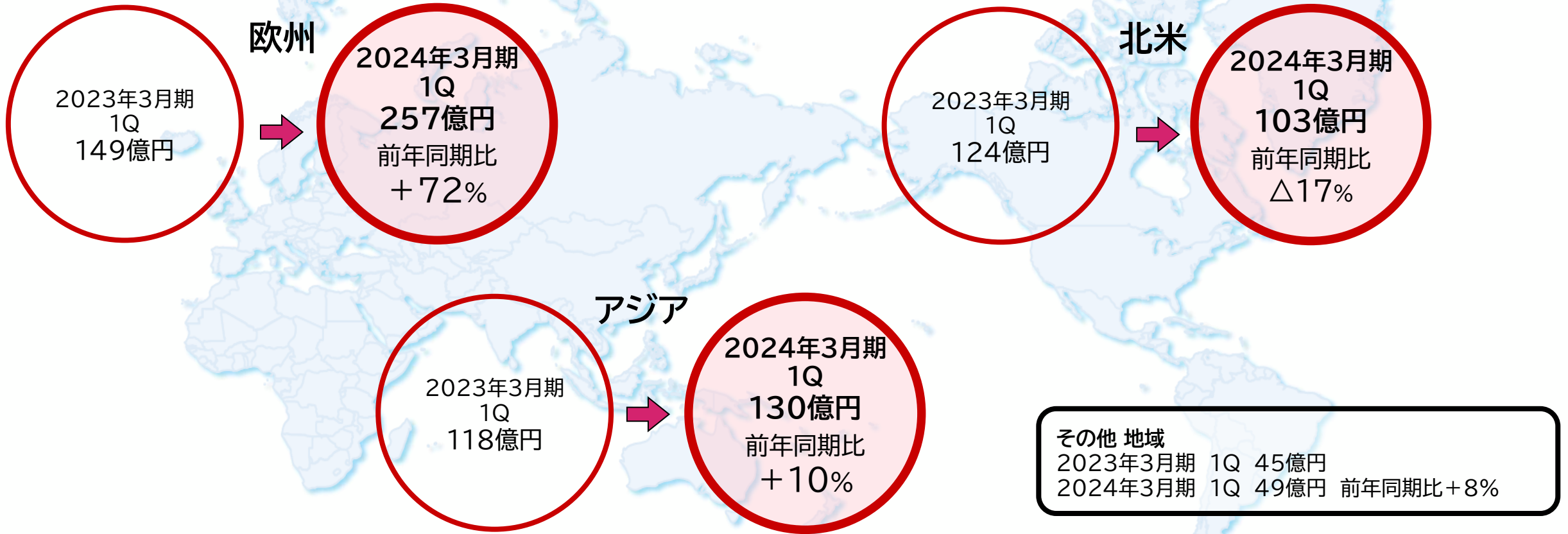
(単位: 億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年6月期	22年6月期	増減	年間計画	年間計画比	23年6月期	22年6月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	89	76	13	458	19.4%	△ 10	△ 5	△ 5	26	—
	養殖	41	41	0	142	29.0%	8	7	1	2	398.0%
	水産商事	734	719	15	2,680	27.4%	22	23	△ 1	39	55.6%
	海外	551	452	98	2,327	23.7%	18	28	△ 10	106	17.0%
	セグメント小計	1,415	1,288	127	5,608	25.2%	38	53	△ 15	174	21.7%
加工食品	加工食品	240	248	△ 8	1,036	23.1%	13	8	5	33	39.5%
	ファインケミカル	17	20	△ 3	80	20.8%	3	4	△ 2	14	18.6%
	セグメント小計	256	268	△ 11	1,117	22.9%	16	12	3	47	33.3%
食材流通	食材流通	528	521	7	2,125	24.9%	15	8	7	29	52.6%
	畜産	262	205	57	761	34.5%	6	4	2	9	69.6%
	セグメント小計	790	727	64	2,886	27.4%	22	13	9	38	56.6%
物流	物流	47	43	4	186	25.1%	8	3	4	15	51.4%
	その他	1	1	△ 0	4	23.8%	1	1	0	2	35.5%
	全社	—	—	—	—	—	△ 7	△ 4	△ 3	△ 6	—
	合計	2,509	2,326	183	9,800	25.6%	77	79	△ 2	270	28.5%

2024年3月期 第1四半期の海外売上高

海外売上高	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 (通期予想)
	437億円	539億円	2,150億円

海外売上高 比率	2023年3月期 1Q	2024年3月期 1Q	2025年3月期 (通期予想)
	18.8%	21.5%	22.4%



お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。